

Anniversary
from 1956 to 2026

70th

町会の未来を考える



contents

大山西町町会創立70周年を迎えて……3

大山西町町会 会長 渡邊 攻

大山西町町会創立70周年を祝して……4

板橋区長 坂本 健

大山西町町会創立70周年を祝して……5

板橋区町会連合会 会長 小林 英子

70年の歩み……6

町会の未来を考える……7

記念講演 令和の町会・自治会活動について……9

社会福祉法人足立区社会福祉協議会 堀 崇樹

特別企画・板橋公園と地域の交流……12

板橋区土木部 公園整備担当課長 志村 昌彦

“町会の未来を考える” ワークショップ……14

コーディネーター：池上 明史

アンケート情報……17

感想・ご意見紹介……18

大山西町町会 news selection ……19

2026.01～06

大山西町町会創立70周年を迎えて



大山西町町会 会長 渡邊 攻

大山西町町会は、今年創立70周年を迎えることができました。

創立された昭和31年当時は、町会名を板橋四丁目睦（むつみ）会とし、昭和48年に大山西町町会に改称。初代・鈴木留次会長、昭和52年第二代・荒井幸一会長、平成5年第三代・春原重春会長、平成15年第四代・後藤昭雄会長、令和元年第五代・渡邊攻と、この70年を五代の会長とそれぞれの役員の皆様の協力で絆を紡いでまいりました。

初代・鈴木会長時代の約20年に及ぶ役員の皆様の尽力が基礎となり、その後それぞれの会長・役員の皆様のご支援ご協力と、また、板橋区・防犯協会・防火防災協会・板橋区町会連合会・仲町地域支部各町会等、諸団体の皆様のご指導、ご支援、ご協力によりまして、今日の大山西町町会が存続してまいりました。

これからも町会の伝統を引き継いでいきたいと思っております。

防犯・防火防災を考えますと、たいへん不安を感じます。少子化により、年々人口が減って来ている

なかで、大山西町でも外国人の居住者が増えてきています。文化の違いからくるトラブル、ごみ問題、深夜の騒音問題等々。また自然災害の不安もあります。安全・安心な地域にと願ってまいります。

さて、時代の流れと共に、近隣町会も大きく変貌を遂げております。例えば大山ハッピーロードのクロスポイントに26階建てのビルが2棟建ち、これからもいくつかの開発計画、東上線の立体化計画と、この先数年で大きく変わっていくことでしょう。

大山西町町会内でも、板橋交通公園が現在大工事中です。昭和43年に子供たちの交通安全教育のために開園され、およそ60年ぶりに大山小学校跡地と合併される改修工事が行われています。

令和9年4月の開園予定になっており、とても楽しみにしております。

大山西町町会が、平和で明るく元気のある、清潔で住みやすい町会となりますよう、皆で支え合い進んでいきたいと思えます。

大山西町町会創立70周年を祝して

板橋区長 坂本 健



大山西町町会の創立70周年を心よりお祝い申し上げます。

貴会が設立された昭和31年は、神武景気と呼ばれる好景気の中、経済白書に「もはや戦後ではない」と記されるなど、我が国が高度経済成長期へと歩みを進める転換期でした。こうした中、貴会は板橋四丁目睦会として設立し、昭和48年に大山西町町会へと改称されました。

爾来70年の永きにわたり、住民相互の交流を積極的に進められるとともに、防火・防災、防犯、交通安全、環境美化、青少年健全育成など、多岐にわたる活動に積極的に取り組んでこられました。

とりわけ、年間を通して毎週3回、町会内を巡回する夜警活動は、地域の安心・安全を支える大きな力となっています。また、平成21年から発行されている町会広報誌「西町かわらばん」は、町会の活動や行事を身近に伝えることで、地域のつながりを一層深めてこられました。

こうした一つひとつの地道な活動の積み重ねにより、大山西町町会は現在2400世帯余の区民の皆様が安心して生活することのできる地域に発展しています。渡邊攻会長をはじめ、歴代の町会長や役員の皆様が

永年にわたり地域の発展に尽力してこられたことに、心から敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

さて、ラジオ体操や納涼盆踊り大会など、長らく町会活動の中心地として親しまれてきた板橋交通公園につきましては、現在、再整備を進めております。これまでの間、アンケートやワークショップ等で多大なるご協力をいただきました地域の皆様に、改めて御礼申し上げます。

リニューアルする板橋交通公園では、「ひと・まち・みどりをつなぐ」ことをコンセプトに、園内を巡る次世代モビリティやコミュニティホール等を整備するほか、地域の皆様や団体等と連携し、創意工夫を図りながら、新しい価値と魅力を生み出す公園運営を行えるよう、令和9年4月の開園に向けて取り組んでまいります。区民一人ひとりの創意を原動力とし、あたたかみややさしいつながりを創り出す「創造都市」の推進に向けて、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、大山西町町会がこれまでに培われた70年の歩みを礎として、今後、ますます発展されますことを心よりご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

70年の歩み

昭和
平成
令和



1956 (昭和31) 年	板橋四丁目 睦会として設立。初代会長に鈴木留次氏就任
1958 (昭和33) 年	3月1日、町名地番整理により板橋区4丁目から「大山西町」が誕生
1959 (昭和34) 年	板橋四丁目通り商栄会が「大山西銀座商店街」と改名 6月 大山西町西寿会 (老人クラブ) 発足 9月 伊勢湾台風の被災地へ支援物資を送る
1966 (昭和41) 年	創立10周年
1968 (昭和43) 年	子どもたちの交通安全教育のために、板橋交通公園が開園
1973 (昭和48) 年	睦会から大山西町町会へ町会名を変更
1974 (昭和49) 年	板橋区の要請により区民消火隊が結成
1976 (昭和51) 年	創立20周年
1977 (昭和52) 年	第2代会長に荒井幸一氏が就任
1986 (昭和61) 年	創立30周年
1993 (平成 5) 年	第3代会長に春原重春氏が就任
1996 (平成 8) 年	創立40周年
2003 (平成15) 年	第4代会長に後藤昭雄氏が就任
2006 (平成18) 年	創立50周年
2007 (平成19) 年	大山西銀座商店街跡地に、都道補助26号計画道路の建設が開始
2009 (平成21) 年	1月 町会誌「西町かわらばん」創刊
2011 (平成23) 年	6月 都道補助26号が相互通行開始
2014 (平成26) 年	3月 大山小学校が閉校 1953年の開校から60年で6300人余りの児童が同校を巣立っていきました
2014 (平成26) 年	12月 都営大山西町アパート世帯が、都営幸町アパートに移転
2016 (平成28) 年	創立60周年
2019 (令和 元) 年	第5代会長に渡邊攻氏が就任
2020 (令和 2) 年	2月 コロナ対策で町会行事が縮小 (令和5年5月まで)
2025 (令和 7) 年	板橋交通公園整備事業開始。令和9年4月開園予定
2026 (令和 8) 年	創立70周年

大山西銀座商店街

町会の未来を考える

座談会を開催！

大山西町町会70周年記念
座談会の開催

町会の未来を考える

町会会員と次世代の方々との交流、意見交換の場となります
ぜひご参加ください

日時：2026年4月12日（日曜日）
14時～16時

場所：仲町地域センター 3F
第一和室

町会の敷居
高い？

分断の壁

町会・自治会
必要？

YES/NO

① 他地域の現状を知ろう！
講師：堀 崇樹先生
「令和の町会・自治会の様子」
ほむたかき先生 profile
社会福祉法人足立区社会福祉協議会
最新地域福祉支援センター 講師、職員
最新地域福祉支援センターの構築、日常活動地域を担
う地域福祉支援センターに4年間従事し、生活支援コー
ディネーター業務には導入時から関わっている。

② 板橋公園と地域の交流について
板橋区土木部
公園整備担当課長 志村昌彦
板橋パークマネジメントグループ

③ グループ討議

④ 各グループ討議の発表

主催：大山西町町会 / 協力：板橋区社会福祉協議会

大山西町町会創立70周年を迎え、今後80周年、90周年、100周年までどう活動を続けていくかが課題です。

4月12日（日）14時から仲町地域センターにおいて

「町会の未来を考える」をテーマに交流、意見交換のグループワーク式の座談会を開催しました。

大山西町町会内の住民、町会以外の住民、また板橋区の職員の方々を含め

約60人の参加者で会場がいっぱいになりました。

1部では、足立区社会福祉協議会の堀崇樹先生の講演、板橋区みどり公園課職員による交通公園整備の説明。

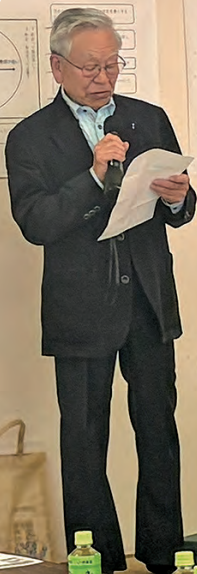
2部では、「町会って必要か」、「町会の敷居が高い」を考えるグループディスカッションを行いました。

当日の様子をご紹介します。



大山西町町会
渡邊会長の
あいさつ

大山西町町会は令和8年4月で
70周年となります。
このイベントで「町会の未来」の答えが
見つければ幸いです。と
どうかみなさまよろしくお願
いいたします。



町会の未来を考えるWS



親子で
参加

グループ
発表を真剣に
聞いています



他の地域の現状を知ろう！

令和の町会・自治会活動について

大山西町町会70周年記念のイベント第1部 足立区社会福祉協議会 堀 崇樹先生による「町会の歴史」「町会の機能」「会員の募集」「町会の維持と発展に向けて」を小テーマとして講演していただきました。



講師：堀 崇樹

ほり たかき 先生 profile

社会福祉法人足立区社会福祉協議会
基幹型地域包括支援センター東部 課長

基幹型地域包括支援センターに9年間、日常生活圏域を担当する地域包括支援センターに4年間従事し、生活支援コーディネーター業務には導入時から携わっている。



皆さん、こんにちは。足立区から参りました、堀と申します。

大山西町町会様70周年おめでとございます。

ここに来る前に板橋公園というのが、どんな場所だろうと思っちょと見てきたんですけども、広いですね。そして刈り込まれているからよく目立ったのが、木が今バサツと剪定されて高い木が何本か立っておりましてけれども20メートルくらいあるんでしょうか、てっぺんがバサツと切られていますが、どうやって切るんだろうというふうに思いました。

いろいろと、町会活動をやりながら町の景観も含めて地域を守っていく、育てていくというのは非常に大変なことで、お金もかかり区役所の人も一緒になって動いているのではないかと思います。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

町会の歴史

今日冒頭は20分くらい足立区の話をしてくれ、という話だったんですけども、若い人もいらつしゃるところということで、あわせて少し町会の歴史みたいなところから見出しとしては出させていただきました。

西町町会様が町会の今の名前になったのが昭和48年ということでございました。

私生まれが昭和48年第二次ベビーブーム世代の間でございます。

町会は元はそもそも5人組からスタートしたんですよ、江戸時代の話だよというふうに、教科書には書いてあります。

多分、東京の人間にとっては、江戸八百八町から話した方が多少イメージが分かりやすい。ちょっと特殊な経過をたどったというところもござります。八百八の町会が、明治になってまとめられていく

わけです。最初50番組制ということで、八百八町の江戸の町内を50に区画割りしまして、その後65になったり、40になったりという形でいろんな形で地域のエリア割りというのが試されていきます。

そういう中でちょうど大体、山手線の中ぐらいいろんなところが15区に割られて特別区のスタートとなりました。その後ですね、まあ22区を経て23区になるんです。

こちらご当地の方は隣の練馬区が板橋区から分かれて22から23っていうふうに、目まぐるしく同年のうちに移行しまして今の板橋区ができていくということになります。

東京の地域を中心市街地の地域を拡張しようということで、山手線の外側の地域が編入されて、ここが東京の23区だと、都心部だということになったわけですが大体、世田谷・練馬・板橋・北・足立の多くはこの時に拡張されて大きくなったというようなところでございました。

その後、戦時下の動員体制ということで、町会・自治会が1940年に制度化されます。この時期は回覧板には、配給お知らせみたいなものが掲示されたということで生活に密着していたというふうに伝えられています。

その後、解体と復活ということで1947年に一旦、解散を命じられるわけです。しかし地元の運営にはやっぱり町会のような組織があった方がいいというところで、特に東京の場合は防火の目的もあって粘り強く続けられたようです。

その当時でいうと例えば足立区でいうと、こちらの方が宿場町に近いですがね、北千住宿場町になってまして、ここは町でした。そこから上は荒川の上は全部、村だったわけですけども、北の方まで行きますと気長川というのが流れています。

以前、町会連合会の会長だった会長さんにお話を伺ったところ、今だと105歳から110歳ぐらい

になる方ですけれども、夏は水泳の授業は気長川でやったそうです。冬は田んぼに氷が張ってたんでそこでスケートをして遊んだというふうなことをお話しされていました。

土地の利用の仕方というの、大きく変わってきたという戦後だったと思います。

一時代には、区の方から委託を受けて転入・転出の手続きも町会でやってたという話も伺いました。町会というのが、それだけ大きな存在で役割を果たしていた、という時代があったようです。

しかし、この全世帯加入で、生活の一部として分かちがたいものであった団体としての町会・自治会というの、昭和を経て平成・令和と時代が移り変わる中でなかなかこの独特の性格というところを、維持するのが難しくなってきたというように時代関係もあるかと思えます。

町会自治会は必要

町会自治会が必要なのか、あるいは町会の数居高いのか、ということ、あるいはワークシートも用意されていますけれどもいろんな機能がございまして、一つは防災・防犯ですね。

これは江戸の時代から火消しの文化というものを引き継いで現在にしているようなところもございまして、最近では災害もね、本当に多くなっています。

足立区という2019年の台風の時に、あわや荒川も決壊するんじゃないかというところ、かなり気をもんだような状態でした。

板橋区でも危機感があったかもしれません。特に千住なんかはですね、あそこは低いですね。

地元の民生委員さんと話してみると、「水害とか地震が頻発するような時代になってきています。防災防犯というのは、どこかの地域で生きていくという意味では欠かせない役割だろうというふうに思いま

す」とおっしゃっています。

またそこに取り組むにあたっては、NPO活動とかボランティアなど、いろんな役割があるわけですがやっぱり住民である以上は町会というふうな輪っかの中に入って、活動していくのが本来で、みんなの安心なんだろうと思うところですね。

行政情報の共有 掲示板の活用と親睦交流

お祭りはとても大事ですね。親睦交流が一番入り口としてとても大事であると思います。

顔の見知った関係というのが多ければ多いほど安心して暮らせますから、そこが一番ベースになると思えます。

足立区ですと、住区センターのお祭りなんていうようなことをよくやったりします。コミュニティ会館みたいなところをベースにして町会で集まってお祭りをするといいようなことをやったりしますが、そういったことが親睦交流ということになるかと思えます。

それから高齢者というところで敬老の行事も行われています。

福祉活動というのも非常に活発にやられるところもあります。

足立区では孤立ゼロプロジェクトというのをやっております。一人暮らしの方、高齢のご夫婦ですね、一定の基準を設けて区の方が取り組んでいます。活発な町会さんでは、見守りパトロールを行って該当者の方をお尋ねして、安否確認をするというのをイベントとして年2回ぐらいやっています。

これは日頃から見守りをしようというところ、象徴的な活動としてやられているところですね。社会福祉協議会とか、包括支援センター、高齢者の相談窓口などと連携しての町会活動もあります。



大山西町町会70周年記念「西町かわらばん」10

千代田区が一番町会と頑張っているところの自治体の一つかなというふうに思いますね。町会ごとに福祉部を作るという活動、これはかなり一生懸命やっている活動です。

それから世田谷も地区の社会福祉協議会を作る、というふうな取り組みをしていますけれどもこの辺は自治体によって様々な取り組み方があるだろうと思えます。

会員の募集

会員の募集ですね。団体ですから、会員というのがあるわけなんです。元々は全員そこに住んでいる人が入ったものが町会なので、私の世代でもそんなもんだと思っ生きていたわけです。実際には強制

加入というのはなくなっているわけです（1947年）。なくなったまんな、少しずつ減ってきた、というふうなことを積み重ねてきた時間というのがあったらどうと思います。

とはいえ、町会の集まりというのは、やっぱり地付きの住民さんが一番、中核になるでしょう。やっぱり日本人の性格としても一番落ち着きがいいです。

地付きの住民さんというのは、表現を変えれば地主さんだったりするわけですけども、その地主さんが町会会館の土地を提供したり、便宜を図ったりというところで、神社関係ですね。そこら辺のところもひっくり返って汗を流しているというところで、誰々さんにやってもらうのが一番いいだろうというのをその時代、時代でやってきたというところが大きいと思います。

ただ一方で町会の加入率が少し減ってくると、どうしたもんか、という取り組みが生まれるわけです。新しいメンバーをどうやって募ろうかという取り組みが行われていたりします。

町会対抗のソフトボール大会っていうのを活発にやってる自治体とかがあつて、そこに出る若人を勧誘するという地域もあるように聞いてます。

または勧誘活動ということで訪問して勧誘するというようなこともあるかと思えます。

足立区でも一生懸命やっているところなんかは、とにかく新しい家が建ったらまずは訪問。ということでもう頭が下がるなと思います。

心ない声を返されることもあるよっていうふうには町会長なんかもおっしゃってましたけれども、とはいえこっちは側から行くんだということですよ。

町会の維持と発展に向けて

10年後を目指して、町会の活動の重要度と敷居の

高さ・低さというところで4象限に切つてあるシートが配布されています。こういう活動、すごく大事ななと思います。

私も一番最後のところ、運営体制の再構築、活動内容の再構築というふうな考えましたけれども、ちょうどこのシートは最適だと思えます。

町会独特の加入制度、全世帯が入っている、それが当然という組織モデルから基本的には自由参加みたいなところに、変わってきています。

で、そうなるかどうか考えていったらいいの？ っていうと町会のことがかつてもらえないんだっていうことと同時に、一般の団体と同じように考えるっていう発想も一つ大事かなと思いました。

例えばですね、会員が減ったら事務量を小さくする、事務量に合わせて新しいメンバーがいる、ということ。

ここはバランスが取れないとどうにもならないので、重要度というところです。町会の活動をも



4象限に切つてあるシート

う一回、見直してみよう。ここじゃないというところにみんな意思決定して、やってみようということですよ。

NPO・事業者との連携

これは今東京都は比較的ここの資源が多いんです。

企業と祭り交流、それから災害対策・福祉、どこをとつても町会との連携が取れます。

介護保険が始まってからいろいろと介護関係の事業者さんが多くなっています。障害関係もありますし、それからテーマ型のNPOというのはいっぱいあります。

組織原理が違うので、なかなかお付き合いするのが難しいところもあったりするかもしれませんが、この辺のマンパワーをうまく活用して、一緒に地域を作っていくというふうなそういう観点も必要かなというふうに思います。

最後になりますけれども、やっぱり町会を維持していくことです。楽しいとか、居心地がいいっていうふうな感覚が得られることっていうのはとっても大事です。

役員の方々っていうのは本当に大変なことだと思いますけれども、一方でこういうこともやってみたら楽しいんじゃないかっていうようなところを目指し、一遍やってみるといいのかなと思います。

何しろ地域づくりは終わりがありません。いい時もあれば悪い時もあるけれども、今やって楽しんでやることが生きていることの楽しみなんじゃないかな、というふうに思っています。

ありがとうございました。

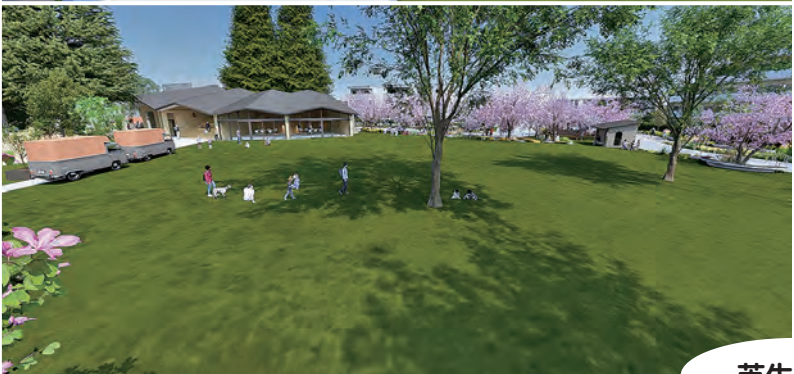
特別企画・板橋公園と地域の交流

令和9年4月に開園予定の板橋公園に
関して、「板橋公園と地域の交流」をテー
マに板橋区土木部 公園整備担当課長
志村昌彦さんにお話しいただきました。
当日はプロジェクトによる公園完成
CGが紹介され、完成が一層待ち遠し
くなりました。
一部ですが、誌上に掲載しましたので
お楽しみください。

公園整備担当課長
志村 昌彦さん



コミュニティホール



芝生広場

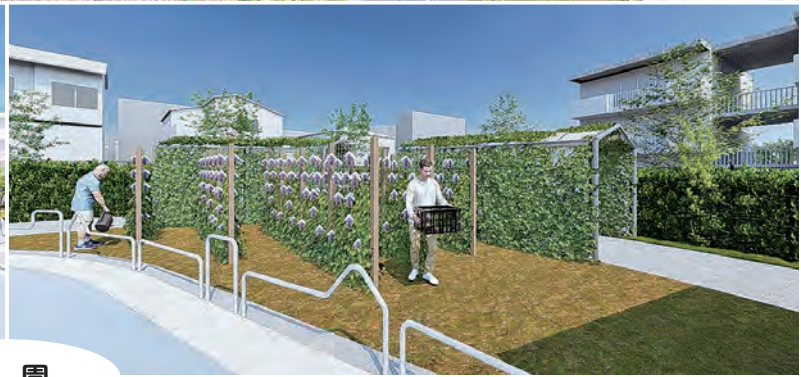




公園全景



農園

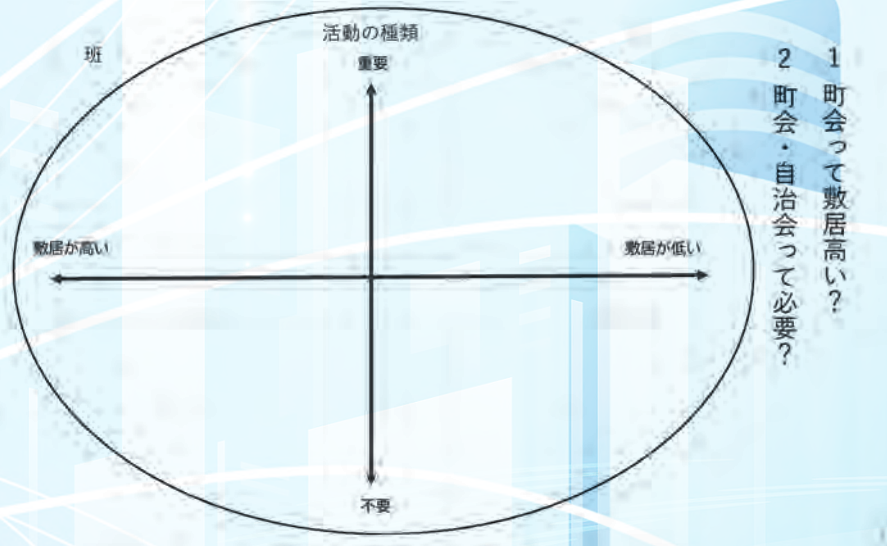


小さな家など遊具



滑り台

“町会の未来を考える” ワークショップ



コーディネーターの大山西町町会・池上明史さんの進行で
小グループのワークショップを開催しました。

テーマ：①「町会って敷居高い」、②「町会・自治会って必要？」。

次のような手順でワークショップを進行しました。

各テーブルで名札を作って自己紹介をしたのち

- 自分がやってみたい事（町会活動に限らず）をフセンに書いてシートに貼る
- ほかの方の意見と重ねる
- 新たな発見や意見があれば加えてみる
- 町会や自治会で開催する場合のハードルを共有

(休憩) お菓子の補給 ※お菓子でもっと親密に打ち解けました。

- チーム名を決定
- 今までの議論を中心に町会・自治会は必要なのかについて討議
- テーマの発表に向けて意見を深掘り
- チームごとの発表者の選出
- 発表内容の抽出

各グループ発表



グループ名：ビーバース
(野球チーム関係者)

町会が必要かどうかは、やっぱり必要。夏の盆踊りは本当に大事。子供たちにとって本当に素敵なイベントで、これは町会ならではのものかなと思う。

敷居が高いか低いかについて、町会以外の人間からするとちょっと高い。

大山西町会が一番の武器って地域に少年野球のチームがあること。野球チームのお父さんお母さん方を町会に取り込んでいければいいかななどの意見。



グループ名：ウエストクラブ
(ほぼ大山西町町会役員)

町会の敷居が高いかどうかにつきましては、ここのメンバーは町会を運営しているので、そんなことは考えられないということ。高いところは敷居じゃなくて自分にとって必要なか、どうかということだと思います。

町会とか自治会が必要なのかも、同じようにメンバーはメン



バーなんで当たり前のことです。町会がなければ、いろいろなことができず、この会議も町会があるからこそ運営できています。

板橋公園については西町町会だけの意見じゃなくて、利用される方の意見もぜひ聞いてやってください。

グループ名：チームセブン
(西寿会・大学生・仲町地域関係者)

我々の班には大学生がいますので、若者視点の話し合いをしました。

町会って敷居高いとか必要性みたいところについては、町会が何をやっているのかが若者視点だとわからず、判断できない環境です。自分が母親から特に町会で何をやっているとかを、伝えられたこともなかったです。



そう意味での家族ぐるみで、子供に伝えるような活動を増やして、そこを巻き込むような施策とかやっていくことで町会が必要になると思われます。

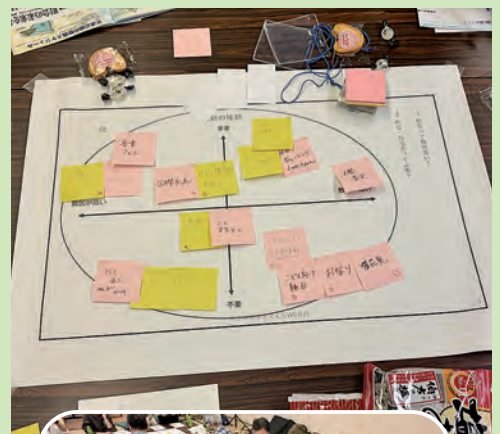
重要なことはいざという時、お互いが知ってたほうが助け合いがスムーズに行える。私たちもすっかりどんどん参加していく側になっていけないというふうに変更して思いました。

グループ名：チーム縁日
(若者のつながり、知り合い)

町会の敷居が高いのか重要度があるのかないのかは、皆さんほぼ敷居高いという話になりました。理由はやはりどうやって入ったらいいかわからない、お声がかからないなど。

重要なことはいざという時、お互いが知ってたほうが助け合いがスムーズに行える。

私たちもすっかりどんどん参加していく側になっていけないというふうに変更して思いました。



グループ名：クリエイティブ

(区役所関係者・町会以外の参加者)

6人中3人が板橋区役所の方なのでそんなチームなのに町会、不要なんてことは絶対言えません。

結論から言うと町会は必要です。ただしやっぱり敷居が高い。気持ち的な敷居も多分高いのと、入り方がわからないとかアクセスの仕方がわからないという部分も、大いにあるのかなという話が出ていました。



イベントをもっと増やしてその参加者を増やしていくことで盛り上げるように努めるが、あまり手間のかからないイベントが大事かなという話が出ていました。

グループ名：物々交換

(町会関係者・町会以外の参加者)

町会会員の入り方がわからない等の解決策は、参加できるイベントから参加してもらおう。そのためには楽しいイベントがあったほうがいいとの意見です。

例えば隠し芸大会、流しそうめんとか、独身の方向けの合コンなど。新しい板橋公園を活用して楽しいイベントを開催し、皆さんに集まっていただくというのがいいのではないかと思います。



コーディネーターの感想

池上 明史 さん

当初、このイベントの挑発的な議題に大丈夫か、若い人はついてくるかと考えました。

若い人と町会の重鎮との座談会でそのことについて意見交換をするというご提案がありましたが、さすがに意見が出しにくいと思いワークショップ形式を思わず提案してしまいました。提案した以上、企画はしなくてはなりませんので企画書を提出し、みなさんの協力を得ながら当日にたどり着きました。

当日は、約60名の参加者やスケジュールの変更、自分の至らない点もあり、バタバタした時間になりましたが、発表を聞いてみると皆さん地元が好きで機会があれば、または周知があれば活動に参加したいというご意見しか見受けられませんでした。

今回ご参加されていない方々のご意見をくみ取ることをしてはならないと思っておりますが、大山西町町会のイベントとしては一定の成果があったと思います。この70周年だけでなく、市民のニーズをキャッチして変化しながら継続していけば町会100周年もすぐそこではないでしょうか。

最後になりますが、今回の企画をお任せいただいた先輩方に感謝いたします。

ありがとうございました。

グループ名：やりたい事いっぱい班

(町会関係者・町会以外の参加者)

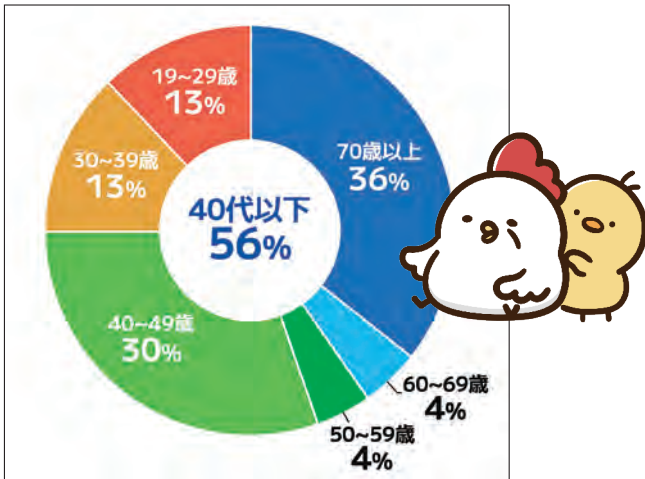
やりたい事がいっぱいあったのでこの名前にしました。町会が必要だと思います。防災や何か有事の際に、地域の方と一緒に解決することがやはり大事。日頃から町会の少人数でもいいので集まって町会の名前を掲げてイベントを開催していく。

町会は高齢化も進んでおりますし、新しい人もなかなか入らないということでもやはり敷居は高いと思います。解決策として情報を広めていくことが大事で、ネットを活用して情報を伝えていくことでだんだんと敷居が低くなって、町会の未来も広がっていくのかなと思いました。

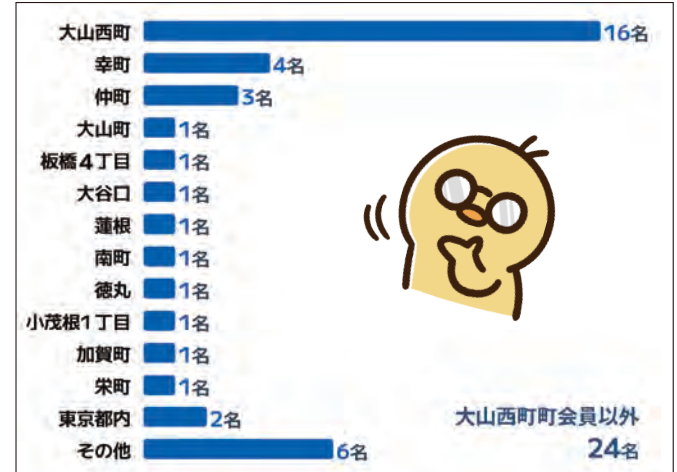


●どんな人たちが参加して話し合った……

Q. 年代について



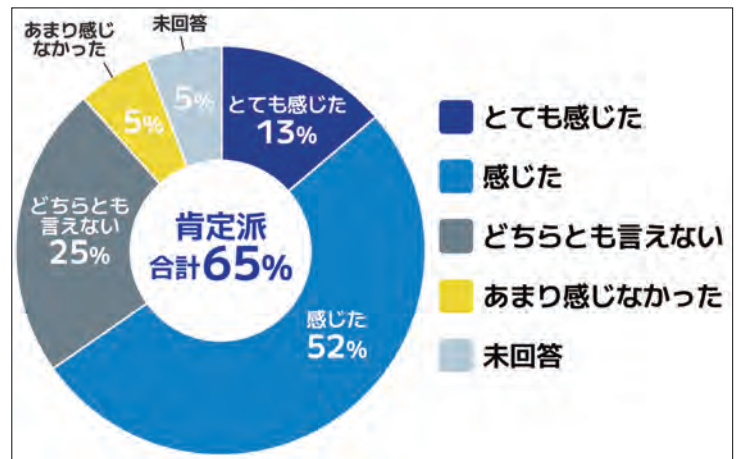
Q. お住まいの地域は？



▶ 20 ~ 40 代が半数以上、また西町町会以外の方にも参加いただくことで活発な意見交換会となりました。

●ワークショップの効果は……

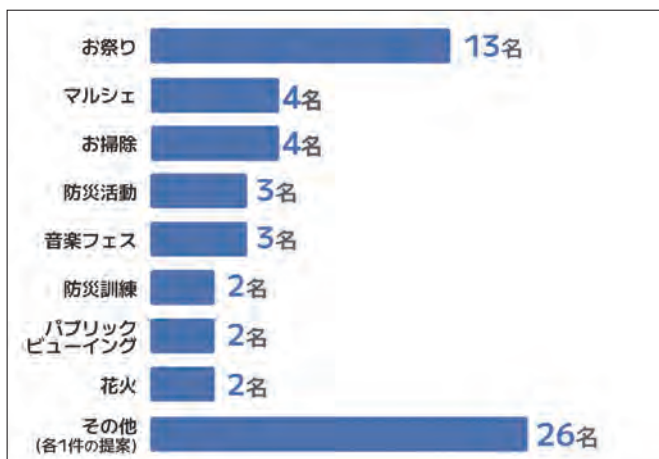
Q. このワークショップを通じて、地域の人々とのつながりが広がりそうですか？



▶ 52% がつながりが広がりそうだと「感じた」と回答しており、「とても感じた」13%と合わせると65%になりました。ポジティブな効果があったことがうかがえます。

●未来に向けてみんなで挑戦!!

Q. 町や公園を含め地域活動として、試したいこと・参加したいことはありますか。



Pick up

国際交流、音楽に関するイベントや学校給食をいろんな国の人と、みんなで食べるのも面白そう。(20代 女性 大学生)

お祭りやマルシェに加えて、多世代交流が可能なカラオケやダンス大会も面白い。防災活動における多言語対応なども考えたい。(20代 男性 社会人)

炊き出しや花火・お花見など、少ない人数でやるよりみんなでやりたい、家族だけより面白そう。(20代 男性 社会人)

▶ 特に若い世代は「外国人住民との関係」「多言語対応」「福祉」など、社会的・国際的な課題に目を向けて、活動のテーマを地域社会の外にも広げようとする視点を持っていたことが印象的。



町会の未来を考える

今回の座談会の感想・ご意見紹介

- 初めてこのようなワークショップに参加をさせていただきました。このような町会のコミュニティがあって、このような話し合いや交流が行われていることも、正直初めて知り、いい意味で地域のイメージが変わりました。本日はありがとうございました
- 町会の活動内容、交通公園のリニューアル案
- 避難所の運営など重要なこともあるのを知れて良かった。無いものから創り出すのは難しいという話が印象的でした
- 町会が地域において、大きな存在価値を発揮していることが分かった
- 意外と若い人がいて、凄く希望を感じた
- みなさん予想よりも町会に関心を寄せているのだなと思いました
- 多くの人に参加していたこと
- 避難所の設営、運営などでは町会の重要な役割だと感じた
- 町会は災害時に必要かもと思いました
- とても勉強になりました。ありがとうございました
- 活発な意見交換と和やかな雰囲気がとても良かったです。今後町会活動を考え、支える立場として色々と活動が出来ればと考えています
- 町会と防災のつながり
- 若い方が多く参加していただいております。今後も活躍してほしいです
- 交通公園の未来が少し見えました
- 多数の大山西町町会の住民が参加するようPRするべきだと思います
- 今回のような事を年に1~3回くらい行う場ができないか
- 若い人が多かったことで、町会の敷居が高いとか、入り方が分からないとのこと。スマホのアプリで西町のことを伝えるのは大切だと思いました
- 外国人住民との関係。防災活動における多言語対応に関する課題など会議場を作る
- 防災関連、他の町会の情報など知りたい
- 大山駅周辺でのイベント企画とコラボしたらいい
- どうすれば町会にもっと人が入るのか、どうすれば町会・運営の負担が減らせるか考える
- 町会でどんなイベントを行えば喜ばれるか
- どうしたら裾野が広がるか、町会に入らなくてもデメリットが無い町会にしてほしい
- 町会連絡方法を周知
- 町会行事の見直しが必要

板橋区防災訓練

3月8日(日)

板橋第二中学校校庭で仲町地域住民による防災訓練が行われました。当日は西町公園に一時集合して、防災訓練会場の校庭を目指し避難誘導訓練も実施しました。



大山西町町会

news selection

2026.01~06

仲町地域 さくら祭り

3月22日(日)

板橋第二中学校校庭で仲町地域さくら祭りが行われました。本年から板橋交通公園の改修工事のため、2026年、27年は板橋二中の校庭での開催となります。27年4月に公園が新しく開園の予定なので28年3月は板橋公園での桜まつりの予定です。



春の全国交通安全運動

4月6日(月)~15日(水)

春の全国交通安全運動を西寿会と協力して実施しました。4月より自転車の交通ルール(青切符制度導入)が厳しくなりました。信号を守る、一時停止標識を見逃さない、無視しない、飲酒したときは乗らない、運転の時はスマホは手に持たない等、基本を守り安全走行を心がけましょう。



東京ふれあいロード・大山西町公園美化運動

毎月第2・第4日曜日午前10時より活動を実施しています。



大山西町町会70周年記念誌

発行日 ● 2026(令和8)年6月13日

発行人 ● 大山西町町会/渡邊 攻

編集 ● 大山西町町会70周年記念実行委員会

発行部数 1,500部



Anniversary
from 1956 to 2026

70th

大山西町町会 ホームページ開設のお知らせ (2026.06 ~)

<https://www.ooyamanishimachi.jp> 検索

